

## 美術鑑賞の問題

# - みる・つくる,そして状況 -

心豊かな生活を営むことは現代の重要な教育課題の一つといえますが、学校や社会教育機関が生涯学習を見通した芸術学習を支援することは、この課題解決に有力な手掛かりとなるでしょう。子どもが充実した美術(アート)を体験するためには、美術・博物館の知的財産を活用した鑑賞活動の理念と方法論の検討および実践を支援する環境整備が求められます。当学会の発表にも鑑賞教育研究の隆盛が見られますが、実践との交流が熱意ある一部の人材に支えられている現状も否定できません。こうしたなか本フォーラムは、プロジェクトが試行する実践から浮上した鑑賞上の諸問題(鑑賞・表現・身体性、多様化する作品の様相、日常と非日常など)を取り上げ、鑑賞とは何か、これからの鑑賞教育(美術教育)は何を目指すのかを考察する機会とします。

■期 日 2010年12月18日(土) 13:20-16:50

■会 場 京都国立近代美術館1階講堂(京都市左京区岡崎円勝寺町 Tel:075-761-4111)

● JR 京都駅から 地下鉄烏丸線・「烏丸御池」乗換・東西線「東山」駅下車徒歩約 10 分

● 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅から 市バス5番岩倉行、46番平安神宮行「京都会館美術館前」下車

■主 催 美術科教育学会、京都国立近代美術館、鑑賞教育研究プロジェクト\*

(\*平成20-22年度科研 基盤(C)20530818「美術・博物館の知的財産活用による生涯学習を見通した鑑賞学習システムの構築」の関連事業)

### ■進行概要

受付開始 12:50 開会 13:20 (司会:竹内晋平・佛敎大学)

主催者あいさつ 福本謹一(美術科教育学会副代表理事・兵庫敎育大学)

山野英嗣(京都国立近代美術館)

#### 第1部 プロジェクトが実践試行した鑑賞事例の発表

実践発表 WG1 1.ワークショップ・プログラムと鑑賞 2.公共空間と私の物語(中学生の鑑賞)

黒澤浩美(金沢21世紀美術館), 西澤 明(金沢大学附属中学校)

実践発表 WG2 1.輻輳する表現・ドローイングと動画 2.日本画の前衛(小学生の鑑賞)

田中聖子(ノートルダム学院小学校), 朴 鈴子(京都国立近代美術館)

実践発表 WG3 「書」と美術の交流(中学生の鑑賞)

松村一樹(京都市立中安祥寺中学校), 西村大輔(京都府立東稜高校)

羽田 聡(京都国立博物館)

#### 第2部 パネルディスカッション

第1部の実践も素材にしながら、鑑賞の意味を考察する

パネラー 福本謹一(兵庫敎育大学)

山野英嗣(京都国立近代美術館)

不動美里(金沢21世紀美術館)

西澤 明(金沢大学附属中学校)

羽田 聡(京都国立博物館)

コーディネーター 石川 誠(京都敎育大学)

閉会あいさつ 花篤 實(元美術科教育学会代表理事・大阪芸術大学)

●参加費無料。会員でなくても参加可です。●申込期限/12月6日(月) E-mailまたはファクスで「所属・氏名・連絡先」を記入の上、下記まで。当日参加も可。資料準備の都合上できるだけ事前にお申し込みを。

●申し込み・問合せ先=石川 誠(京都敎育大学 美術敎育専修)

E-mail: mishik@kyokyo-u.ac.jp Fax: 075-644-8312